令和5年度 京都府立東宇治高等学校学校経営計画（実施段階）

(スクールマネージメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
自主性を基盤に、社会と関わり、課題を解決しようとする人の育成をめざす。 そのような人を「みらいを明るくできる人」と定義し、その育成のために、生徒に次の姿勢を身に付けさせる。 (1) 挑戦する姿勢 (2) 周囲と関わる姿勢 (3) 努力し続ける姿勢	○1人1台タブレット端末の導入の実施初年度であり、個別最適な学びを具体化する開始の年度とした。引き続きICTを活用した授業の充実を一層推進するとともに、情報リテラシー、モラルを含む教育の推進も図ることが重要である。 ○観点別評価についても実施初年度であったが、観点別評価と評定について整理し、評価方法について一定の方向性が見い出せた。 ○学校行事の実施が普段通りになり、多くの生徒が一定の充実感を感じたことは評価できる。 ○コロナ禍における基本的な感染症対策が全教職員のもとで実施できた。 ○成人年齢の引き下げに対応する主権者教育の推進を図ることが必要である。 ○生徒のさらなる減少を控えた山城通学圏における東宇治高校の在り方について熟議し、本校の特色ある取組について中学生、保護者、地域に広く理解を促し、かつ在校生が充実感を持って学校生活を送るための教育活動に組織的に取り組むことが必要である。	中期経営目標に掲げた「みらいを明るくできる人」の育成、及び「3つの姿勢」の涵養のために、本年度は次の目標に重点を置く。 (1) 人権意識と社会性の涵養 日々の教育実践が、人としての基本を身に付け、互いの人格を尊重し、人権意識を備えた人材の育成の場であることを常に意識する。 (2) 授業改革 学習指導要領を踏まえ、「知識・技能の習得」を礎に、「自ら学ぼうとする力」や「知識を活用して問題を発見・解決する力」を育成するため、1人1台タブレット端末等のICT機器の活用を進めるとともに、**観点別評価の実施により生徒の学習改善を図る。** (3) キャリア教育と進路指導 社会への貢献、社会とのかかわりを意識づけるキャリア教育を進めるとともに、高大接続改革などに対応した丁寧な進路指導を一人一人に行う。 (4) 外部機関との連携 大学や地元小中学校、地域の団体などとの連携を深め、グローバル社会・地域社会で活躍するための素養を醸成する。 (5) 総合的な探究の時間 「国際教育と地域連携をテーマとした探究学習」の研究をさらに推進し、「総合的な探究の時間」運営に注力する。 (6)働き方改革 ICTを活用した教科・分掌等の業務内容の効率化や会議の精選を行い、教職員が生徒と向き合う時間を確保しつつ、ライフワークバランスを踏まえた働きがいのある職場環境を整える。

重点目標

＜分掌・領域＞　　A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった

領域	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
組織・運営	分掌間及び教科間の連携・協働の推進	本校の教育目標の実現に向け、各分掌部長及び教科主任が主たる調整役となって、関係する分掌及び教科と連携・協働し、効果的・効率的に業務を遂行することによる働き方改革の推進を図る。	B	関係する分掌部長、教科主任で起案文書を回議することを推進し、連携、協働の推進を図った。次年度は、計画的な事前調整、連携がさらに推進されることにより、働き方改革に繋がるよう工夫したい。
教務部	・ICTの利活用 ・観点別評価についての改善 ・働き方改革に伴う業務の見直しと精選	・タブレット端末が2学年となり、より一層授業や行事、部活動でも利活用が進められるようにする。特に公開授業を通してICTの利活用だけでなく、授業の改善を図れるようにする。 ・1年生、2年生と観点別評価が拡大され、観点と評価の関係についても、改善を図りながら、点検作業を減らす工夫を続ける。 ・あたり前に行っていた内容も、工夫を行い、対象、回数などを減少させる、または中止などを行う。	B	観点別評価については、チェッカーを有効活用してもらい、観点別評価の点検の時間を短縮できた。採点業務短縮のため、デジタル採点支援システムを試行導入した。学習規律期間の対象を1年・2年として業務の軽減を図った。公開授業を通じて、ICTの利活用を推進できたが、授業参観率が目標を達成できなかった。また、保健部と協力して、学校全体でインクルーシブ教育、授業のUD化を行った。
総務企画部	・魅力的な広報活動の展開 ・地域に開かれた学校づくり	・Webページや学校説明会等、本校の魅力が伝わるものにするため、各分掌・教科・生徒会と協力する。 ・PTA・教育後援会の運営・活動を役員と協力して円滑に行う。 ・地域、保護者等に学校生活が伝わるように、Webページ、PTA広報誌等を活用する。	B	・本年度はWebページに加え、Instagramを活用するなど、効果的に広報活動を行った。また、学校説明会は昨年度のアンケートを基に1年間の構成を見直した。その結果、前期中期選抜共に志願者数が前年度を上回った。 ・PTA活動では文化祭の本格的な模擬店の復活をはじめ多くの事業を通常通り開催することができ、保護者参観も例年を大きく上回る参加数となった。今後、学校行事、PTA活動を通して、学校と地域との関わりを深めていきたい。

領域	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
生徒指導部	・部活動の活性化 ・学校行事(生徒指導部主管)の活性化 ・校則の見直し	・部活動の活性に向けて、生徒の所属部活動を随時把握し、入退部などの登録管理を徹底する。及び部活動ミーティング、部員清掃など部活動全体での取り組みの再開。 ・文化祭、体育祭における生徒の充実度や満足度をより高いものとなる、取り組みにする。 ・校則の見直しについて、生徒、教員、保護者、地域の方々の意見を聞き進める。	B	・4月から9月末における入部状況を顧問に確認し生徒指導部で把握。また4月に部活動ミーティングの実施、及び8月3日に一斉部員清掃の実施。 ・文化祭、体育祭ともコロナ以前に近い形で行えた。また生徒の満足度も事後　　アンケート結果によると非常に高かった。 ・生徒会を中心とした生徒、保護者、近隣の方々の意見を踏まえ見直しを行った。
進路指導部	生徒が進路学習を通じて、社会との関わりを意識したキャリア形成を行い、希望進路実現に邁進する姿勢を涵養するために必要な支	学年や状況に応じた進路学習を企画運営する。また、入試に対応できる学力を育成するために各種学力テストなどを活用できる環境を整え、教科、学年部との連携を図り東宇治高校が抱える課題を共有する。さらに、1・2年については、学習用端末を用いた新たなキャリア教育の方法について、情報収集や検討を進める。	B	・計画された進路学習を、滞りなく進めることができた。 ・学力分析会を実施し、多くの教員と1・2年生の状況を共有し、各学年、各教科への対策とつながった。 ・生徒が学習用端末を利用するキャリア教育については、効果的な利用ができず、今後に課題を残す。 ・人権教育は、1学期、2学期ともに滞りなく実施できた。また、教職員対象の人権研修についても、実施できた。 ・進路学習、人権教育ともに、講演会などで高まった生徒の意識を、どのように持続させるかが、今後の課題である。
	生徒だけではなく教職員も高い人権意識を持つための啓発活動を行う。	人権啓発活動の一環として人権教育及び研修などの企画運営を行う。特に、学習用端末を持つ学年が2学年となるため、このような状況下で必要となる人権教育及び研修について検討を進める。さらに、昨今、取り上げられている人権を意識した研修について検討を進める。		
保健部	生徒の心身の健康を守り、安心・安全な学校づくりを推進する。	・生徒の抱える心身の健康課題の多様化に対し、他分掌と連携を図りながら学校全体で組織的に対応する。 ・健康上配慮の必要な生徒や不登校傾向など様々な課題を持つ生徒に対する相談活動を充実させるとともに、健康課題の緊急性・必要性を見極め、カウンセリングを有効活用する。	B	○関係者（SC、担任等）と連携し、不登校傾向にある生徒及び特別支援が必要な生徒に対する相談活動を実施し、必要に応じて外部機関にも協力を得ながら対応した。 ○行事に係る特別清掃は他分掌と連携しながら計画的に実施し、校内の美化と教育環境の維持に努めた。 ○コロナ後も続く欠席・遅刻・早退生徒が多い状況について、健康や生活習慣に課題のある生徒に対する改善策を検討したい。
図書部	読書活動を通して生徒の情操を豊かにするとともに、広汎な知見や幅広い思考力・積極的な探究心を持った生徒を育てる。	・各教科と連携しながらメディアセンターとしての図書館運営を目指し、生徒・教職員の施設利用および図書の貸出を促進する。 ・生徒の積極的な探究活動が円滑に行えるよう、府立図書館等の相互貸借を活用し学習環境を整備する。 ・図書委員会等の活動を通して生徒に対する読書の啓蒙に努める。 ・図書館内での様々な企画・展示およびHPを活用しての広報活動に努め、「発信する図書館」を目指す。	B	・総合的な探究等の授業において、府立図書館の相互貸借を活用し、生徒の学びが円滑に行えるよう学習環境を整備することができた。 ・創立50周年記念ブックカバーコンテストやオススメ本の紹介・展示など図書委員会の生徒の企画による活動を行うことができた。 ・行事や季節に即した展示や校内の式典や講演内容に関連する書籍の展示などをタイムリーに行うことができたが、生徒の読書につながるところまでは至っていない。今後の方策が課題である。
第1学年部	新しく高校生活を始めるにあたり、基本的な生活習慣や正しい身だしなみを身につけられるよう指導する。また、広い地域から集まった生徒たちが、お互いに相手の考え方を受け入れ、人権を大切にする集団を育てる。	・遅刻指導・身だしなみ指導をしっかりとおこない、高校生としての好ましい生活習慣を身につけさせる。また、家庭での勉強時間を確保させ、学習習慣を身につけさせることで、高校での学習の基礎学力をつけさせる。 ・学校行事やクラス活動、総合的な探究の時間、授業などをとおして、自分と違う意見や価値観をもつ人と意見を交換する機会を増やし、お互いを受け入れ尊重しあう集団を育てる。また、学年集会や人権教育などをとおして人権意識を身につける。 ・情報モラルを養い、タブレットを適切に利用できるように指導する。また適切に学習にも活用できるように指導する。	B	遅刻・身だしなみ等、学年団で共通して指導をしてきた。また、家庭学習習慣がなかなか身につかないので、学年集会で進路の話をしたり、外部業者を活用して学習を促した。学校行事等については、学年全体で前向きに取り組めた。ICTの活用がすすみ、授業においてタブレットを活用させることができた。
第2学年部	生活規律を確立させ、将来社会に貢献できる姿勢を伸長させる。自他の相互理解により、周囲と関わることができる力を培う。進路目標を具体化させ、主体的に課題を解決する姿勢を培う。	・日常の生活について、自分の行動や身なりを確認できるよう指導する。 ・教育活動全般において、他者を理解し、行動することを意識させる。 ・模試を活用し、進路目標を明確にさせる。また、進路実現のための学習計画について考える機会を作る。	B	学校行事への取り組みなど、他者と協力する様子が伺え、お互いを理解しながらの取り組みができた。また、学校生活全般の行動面においては、概ね良好であった。学習については、2年の終盤ということもあり、積極的な取組が見られるようになった。10月・1月実施の総合実力判定テスト結果や進路別ガイダンスより、進路意識の高まった生徒も増加した。3月から進路実現に向けて学習習慣の構築についての指導が課題である。

第3学年部	未来を見据え、目標までの道を描き、進む力を育成する。また、広い視野を持ち、積極的な交流を行うことで互いに刺激を味わう姿勢を培う。	・一人一人に寄り添った進路サポートの徹底 ・卒業生や外部講師による講演を活用し、目標を具現化する ・安易に妥協を選ばない指導 ・iPad未導入学年として、有効的なICT機器の活用 ・家庭学習習慣の確立 ・社会人としての言葉遣い、振る舞いを習慣づける	B	国公立大学、私立大学、短期大学、専門学校、就職希望など多岐にわたる進路希望に対し、外部業者を活用しながら、本人の適性を考慮し妥協した選択をしない進路指導を遂行した。また、言葉遣いや振る舞いなどについて、自らその本質と向き合い、最高学年としての風紀を保つことができた。来年度以降、家庭学習習慣の確立や安易に欠席を選択する生徒への対応について、家庭の協力も得ながら改善していかなければならない。
事務部	学習環境の整備並びに希望進路実現の支援	引き続き予算の効率的な執行と経費節減を心がけ、ICT教育の充実等に必要な予算を確保、学習環境の整備も継続する。老朽化した施設設備の改修についても持続的かつ計画的に実施する。 希望進路実現に向けた就学支援制度の一層の周知を徹底するとともに、丁寧な個別対応に努める。	B	光熱水費や物価の高騰が継続する状況下で、目標の達成に向けて尽力した。 希望進路実現に向けて就学支援制度の一層の周知を徹底し、丁寧な個別対応に努めた。

学校関係者評価委員会による評価	○概ね計画通りに教育活動が行われており、各取組の成果も見られる。 ○時代の変化に対応する校則の見直しを推進することにより、教育活動の充実を図ることが大切である。

次年度に向けた改善の方向性	○時代の変化に対応できるよう、校則の見直しの他、授業改善の推進を図る。